

1 地図と地理的技能に関して、問いに答えよ。

問1 次の文章は、地球上の位置を測定するシステムについての説明である。空欄A、Bに当てはまるものを、下の選択肢からそれぞれ一つ選べ。

人工衛星から発せられた電波を受信し、地球上の位置を正確に表すことができる仕組みをAという。これは、アメリカ合衆国が開発したBやロシアのGLONASS、またヨーロッパや中国の測位システムの総称である。

- a. GDP b. GIS c. GNP d. GNSS e. GPS

問2 次の図1を参照して、地図中のカイロとサンクトペテルブルクの距離を求め、最も適当な数値を、下の選択肢から一つ選べ。

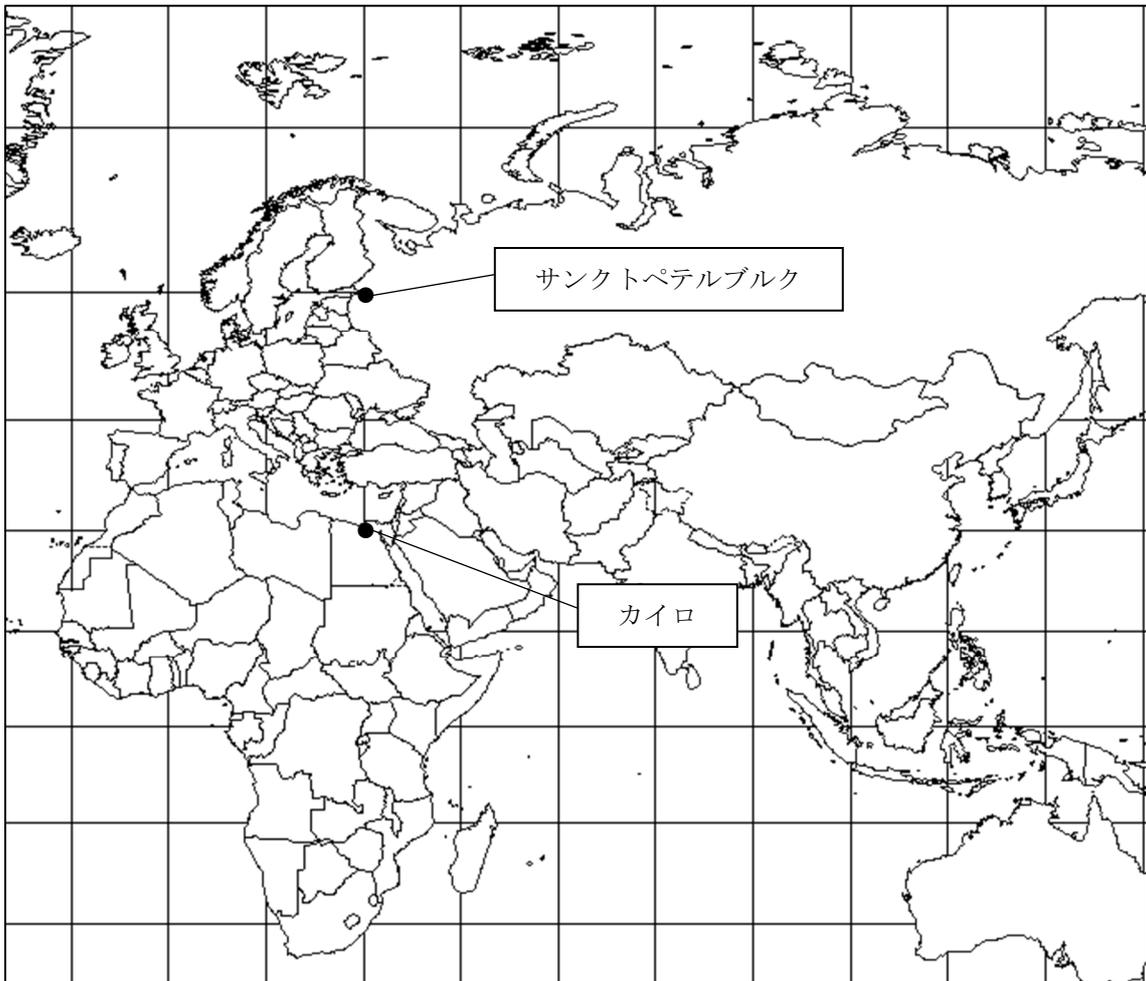


図1

- a. 約 1,111 km b. 約 3,333 km c. 約 5,555 km d. 約 7,777 km

問3 次の文章は、地図の分類に関する説明である。空欄C、Dに当てはまるものの組合せを、下の選択肢から一つ選べ。

地図は、作成の意図や目的によって、**C**と**D**に分けられる。**C**は、特定のテーマを中心として表されたもので、土地利用図や地質図などがあてはまる。一方、**D**は、地表から読み取れる事象を網羅したもので、地勢図や地形図が該当する。

	C	D
a	一般図	主題図
b	主題図	一般図
c	実測図	編集図
d	編集図	実測図

問4 地球に関する説明として適切なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. 本初子午線は、パリ郊外の旧グリニッジ天文台を通る経線と定められている。
- b. 地球の地軸は、公転面に垂直な線に対して約67度傾いた状態で公転している。
- c. 白夜は、おおよそ9月～3月の北極圏で観測される。
- d. 赤道全周は、北極点と南極点を通る子午線全周よりも長い。

2 次の文章 I， II を読んで、問いに答えよ。

I 世界の交通は大きく、陸上交通、⁽¹⁾ 水上交通、⁽²⁾ 航空交通に分けられる。さらに陸上交通は⁽³⁾ 鉄道交通と⁽⁴⁾ 道路交通に分けることができ、それぞれ長所と短所を持っているため、各交通機関を使い分けることが輸送面の効率化につながる。

問 1 下線部 (1) の水上交通は船舶を利用して旅客や貨物を運ぶ交通機関のことである。このうち貨物輸送の船舶形態としてバルクキャリアと呼ばれるものがある。この船舶が輸送する品目として適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. 自動車 b. 半導体 c. 生鮮品（野菜・魚介類） d. 小麦

問 2 下線部 (1) の説明として適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. コンテナ取扱量は機械の組立工業が発達した中国が伸びているが、いまだにアジア NIEs 諸国や近年成長著しい ASEAN 諸国には追いつけていない。
 b. 商船船舶保有量は、かつてイギリスやギリシャが多かったが、近年は登録税などが安価な便宜置籍船国である、パナマやリベリアが多くなっている。
 c. 開門式のスエズ運河や水平式のパナマ運河の開通で、貨物の輸送量は飛躍的に増えた。
 d. 近年の貨物輸送の主役は目的地別に輸送可能なコンテナ船に移ってきており、古くから活躍してきた貨物船の需要は少なくなっている。

問 3 下線部 (2) の説明として適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. 大陸間などの国際移動に関して、中緯度ではジェット気流を利用できるので、往路も復路も時間差は生じない。
 b. LCC（格安航空会社）の発達で、大手の航空会社は赤字を抱えているため、大型航空機への転換は難しい。
 c. 2点間の最短コースを飛ぶことができるので、国際長距離輸送に向いている。
 d. 航空機は上空の成層圏を飛ぶので、気象の影響は受けない。

問4 下線部(3)について述べた次の文章中の下線部の中で適当なものを、a～dから一つ選べ。

鉄道交通は19世紀の交通機関の中心であり、最初は北アメリカ大陸の大陸横断鉄道のように西部開拓、とりわけゴールドラッシュ時代の^a人員輸送が中心であった。しかし現代は、日本のように、急速な都市への人口集中による^b都市圏内の旅客の近距離輸送も活発である。また、新幹線による大都市間の中距離高速輸送が世界に広まり、^cフランスのICEやドイツのTGVなどが発達している。更に近年では環境保全の観点から、アメリカ合衆国を中心に、^d地方の中小都市間の輸送に特化したLRTも見直されている。

問5 下線部(4)の説明のうち、日本の道路交通に関して適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. 貨物輸送は道路交通が中心で、鉄道輸送は少ない。
- b. 戦後の発展は1970年の大阪万博の頃に開通した名神高速道路から始まる。
- c. 郊外の道路沿いにショッピングセンターが建設されたため、交通渋滞が解消されている。
- d. 排ガスなどの環境問題の観点から、ガソリン自動車、電気自動車、水素自動車、ハイブリッド自動車の順に普及している。

II 世界の貿易はかつての (5) 南北貿易などから水平貿易へ変化しつつある。また、(6) 多国籍企業の海外進出が進むことにより、(7) 国際分業などのグローバル化が進んでいる。しかし、貿易品目、とくに (8) 輸出品目にはその国の産業などの特徴が現れており、経済発展をしてもなお変化しない輸出品もある。

問 6 下線部 (5) について述べた次の文中の下線部の中で適当なものを、a～d から一つ選べ。

南北貿易は、a. 北半球に多い発展途上国と南半球に多い先進国との間の貿易及び貿易品の内容も意味していた。アメリカ合衆国やオーストラリアなどの先進国からは、b. 石油や天然ガス、石炭などのエネルギー資源を、発展途上国からは綿花やサトウキビなどの農産物を輸出する貿易体系へ変化した。c. 水平貿易では中緯度に位置するヨーロッパ、中国、日本、アメリカ合衆国間の貿易体系を意味するようになり、これらの国家間の貿易は現在でも重要な役割を果たしており、d. 先進国家間の自動車や機械などの工業製品どうしを貿易するものへと発展してきている。

問 7 下線部 (6) について、多国籍企業の説明として適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. 多国籍企業の自由な活動を促進するため、WTO などの組織が作られた。
- b. アグリビジネスなどを展開する穀物メジャーは、アメリカ合衆国など先進諸国内のみに拠点を置いている。
- c. ベンチャービジネスはシリコンヴァレーなど、1 か所において活動している企業のことである。
- d. メジャー（国際石油資本）は、石油の探査、採掘、輸送、販売などを行っている。

問 8 下線部 (7) について、国際分業の一つに航空機産業がある。これに関して適当なものを、次の選択肢から一つ選べ。

- a. おもに EU 諸国で製造されているエアバス社の航空機の部品は、フランスのトゥールーズで最終的に組み立てられている。
- b. エアバス社の航空機の部品の一部は、近隣の北アフリカのリビアなどでも製造されている。
- c. アメリカ合衆国のボーイング社の航空機のエンジンはフロリダ州のケネディ宇宙センターで製造されている。
- d. ボーイング社の航空機の胴体はすべてアメリカ合衆国で製造されている。

問9 下線部(8)について、各国の貿易に関して、次の表1はインド、エチオピア、イタリア、チリの輸出品目の上位とその割合を示したものである。インドに当てはまるものを、次のa～dから一つ選べ。

表1

	1位	2位	3位	4位	5位
a	機械類 25.0	自動車 7.4	医薬品 6.6	衣類 4.9	鉄鋼 3.8
b	石油製品 13.5	機械類 11.5	ダイヤモンド 6.8	医薬品 5.5	繊維品 5.3
c	銅鉱 26.6	銅 21.5	野菜・果実 10.6	魚介類 8.8	パルプ・古紙 3.9
d	コーヒー豆 24.3	野菜・果実 19.0	ごま 18.2	肉類 6.6	機械類 5.1

統計年次は2018年または2019年。単位は%。『世界国勢図会 2021/22年版』による。

問10 下線部(8)について、各国の貿易に関して、次の表2はスリランカ、ガーナ、スペイン、エクアドルの輸出品目の上位とその割合を示したものである。空欄A～Cに当てはまる品目の正しい組合せを、下の選択肢から一つ選べ。

表2

	1位	2位	3位	4位	5位
スリランカ	衣類 45.6	A 11.0	ゴム製品 5.5	機械類 4.1	繊維品 3.1
ガーナ	金 37.0	B 31.3	カカオ豆 11.0	ココアペースト 2.4	C 2.4
スペイン	自動車 16.0	機械類 12.5	C 6.2	石油製品 5.4	衣類 4.4
エクアドル	B 34.6	魚介類 24.4	C 17.6	石油製品 4.2	装飾用切花 4.0

統計年次は2019年。単位は%。『世界国勢図会 2021/22年版』による。

	A	B	C
a	原油	野菜・果実	茶
b	原油	茶	野菜・果実
c	茶	野菜・果実	原油
d	茶	原油	野菜・果実
e	野菜・果実	茶	原油
f	野菜・果実	原油	茶

3 図1を参照して、オーストラリアに関する問いに答えよ。

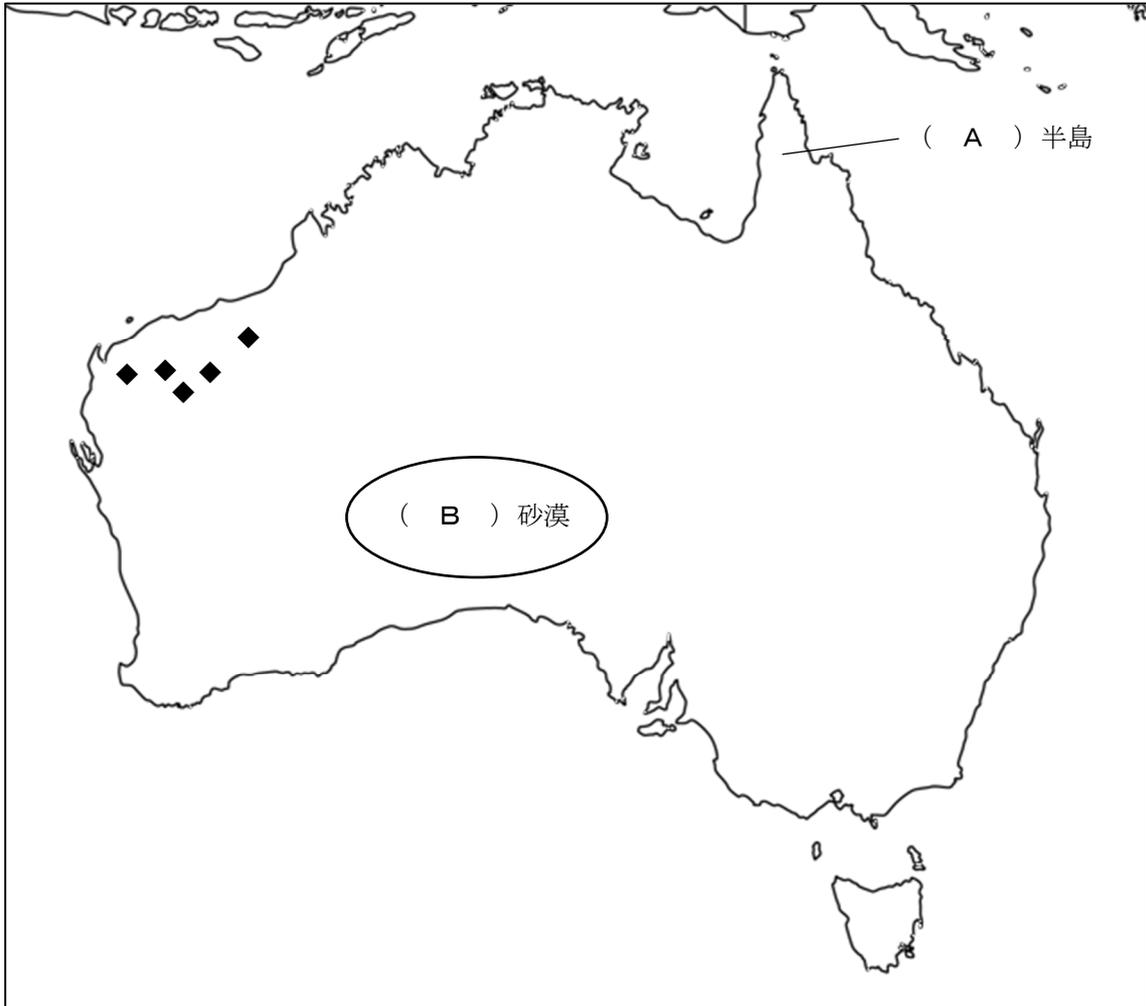


図1

問1 図1のAの半島とBの砂漠の名称として適当なものを、次の選択肢から一つずつ選べ。

- | | |
|------------------|-----------------|
| a. アーネムランド | b. ウェスタンオーストラリア |
| c. クインズランド | d. グレートアーテジアン |
| e. グレートヴィクトリア | f. グレートサンディー |
| g. グレートディヴァイディング | h. ケープヨーク（ヨーク岬） |
| i. タナミ | |

問2 図1中の◆は、オーストラリアで多く産出されるある鉱物資源の産地を示したものである。この鉱物資源の国別産出量統計として適当なものを、次のa～dから一つ選べ。

a		b	
オーストラリア	28.5	中国	13.2
中国	22.7	オーストラリア	9.3
ギニア	15.0	ロシア	8.4
ブラジル	12.5	アメリカ合衆国	7.3
インド	7.4	カナダ	5.1
ジャマイカ	2.7	ペルー	4.7
計 30,800 万トン		計 3,230 トン	

c		d	
オーストラリア	36.5	中国	54.7
ブラジル	17.9	インド	10.5
中国	14.9	インドネシア	7.2
インド	8.3	オーストラリア	6.5
ロシア	4.1	アメリカ合衆国	5.0
南アフリカ共和国	3.4	ロシア	4.9
計 150,000 万トン		計 644,407 万トン	

統計年次は2017年。単位は%。

『データブック オブ・ザ・ワールド 2021 および 2022』による。

問3 次の図2中のP～Rは、牧牛地域、牧羊地域、酪農地域を示したものである。これらの組合せとして適当なものを、下の選択肢から一つ選べ。

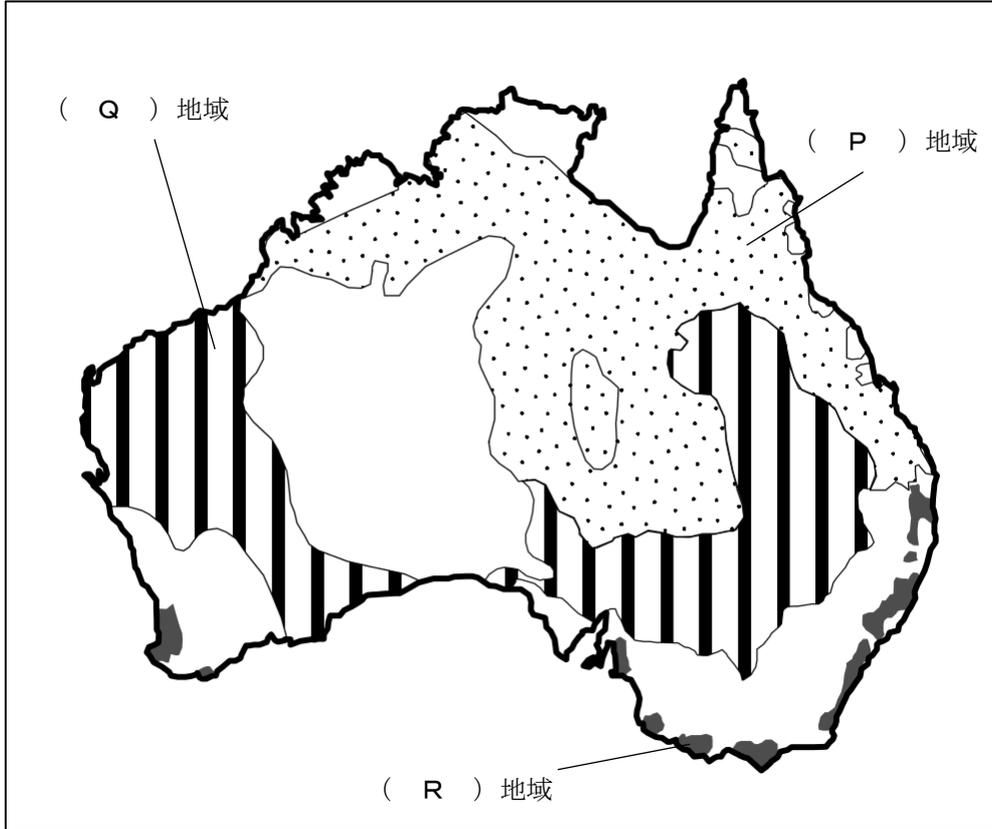


図2

『Jacaranda Atlas 2007』他による。

	P	Q	R
a	牧牛	牧羊	酪農
b	牧牛	酪農	牧羊
c	牧羊	牧牛	酪農
d	牧羊	酪農	牧牛
e	酪農	牧牛	牧羊
f	酪農	牧羊	牧牛

問 4 次の図 3 は、オーストラリアを訪れる観光客数とその割合の変化を、20 世紀後半の 1980 年と 21 世紀前半の 2017 年について示したものである。また、表中に示された Y と Z の地域は、アジアとヨーロッパのいずれかである。このうち、2017 年とアジアにあてはまる組合せとして適当なものを、下の選択肢から一つ選べ。

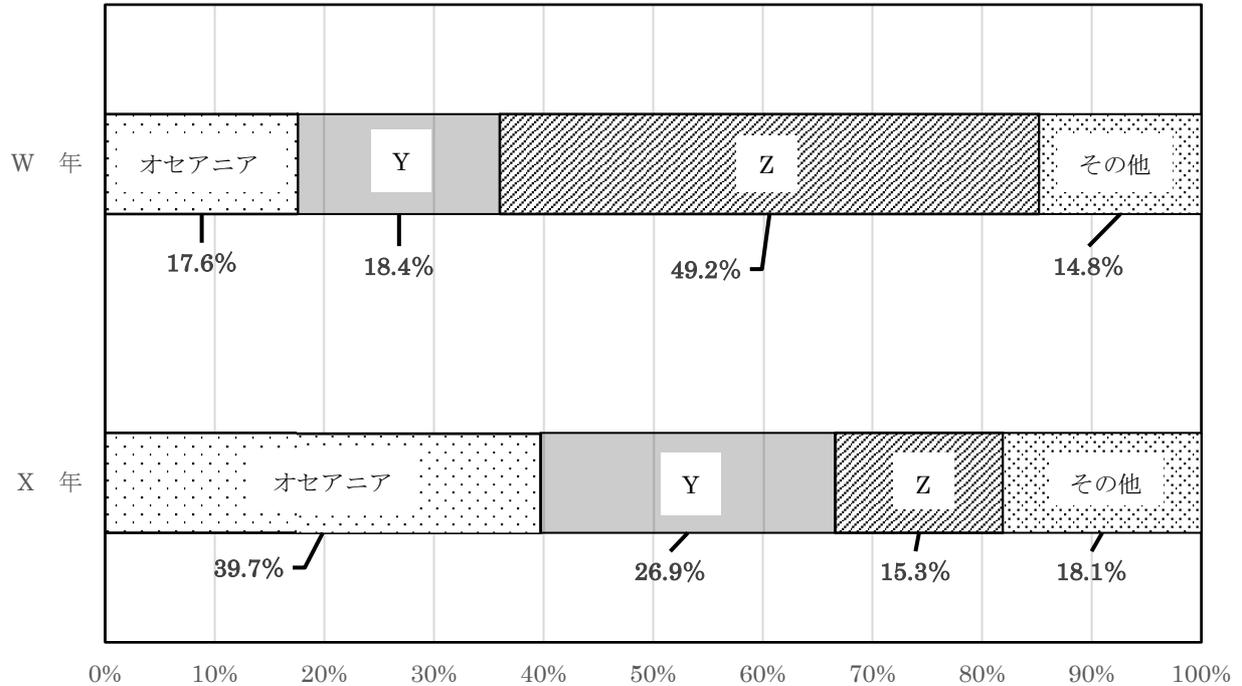


図 3
『Australian Bureau of Statistics』他による。

	2017 年	アジア
a	W	Y
b	W	Z
c	X	Y
d	X	Z

1 (13点)

問 1		問 2	問 3	問 4
A	B			
d	e	b	b	d
3点	3点	2点	2点	3点

2 (24点)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
d	b	c	b	a	d	d	a	b	d
2点	3点	3点	2点	2点	3点	2点	2点	2点	3点

3 (13点)

問 1		問 2	問 3	問 4
A	B			
h	e	c	a	b
2点	2点	3点	3点	3点